

海外農林業情報 No.57

米国農務省による穀物作付見通しと世界食料需給見通し

1. 米国農務省（USDA）は 3 月 31 日付で、今年最初となる米国の主要穀物作付見通し（「Prospective Plantings」）を発表しました。

これによると、米国の 2016 年のトウモロコシの作付面積は 9360 万エーカーで、2012 年以来初めて増加に転じ、1944 年以降 3 番目に大きい水準となっています。他方、大豆の作付面積は 2015 年よりも 1% 下がる見通しとなっています。

これは、シカゴ相場においてトウモロコシ価格が高騰し、2016 年のトウモロコシの収益が高まるとの期待を反映したのですが、3 月の本見通しの発表を受けて、相場は落ち着きを取り戻しており、今後は作付け意向がトウモロコシから大豆に移行するなどの変化が見られる可能性があります。

2016 年の小麦の作付面積は前年から 9% 減少し、特に冬小麦の面積が前年から 8% 減少しました。ソルガムの作付面積は 2015 年から 15% 減少し、722 万エーカーになるものと見込まれています。

2. 上記の作付の意向を踏まえ、米国農務省は 4 月 12 日付で今年 1 回目となる世界食料需給見通し（「World Agricultural Supply and Demand Estimates Report」）を発表しました。一般的に、世界の穀物価格はシカゴ先物取引価格がベースとされるため、今後毎月 10 日頃に発表される米国の世界需給見通しが大きな注目を集めることになります。

本見通しの主な内容は次の通りです。

（1）小麦

米国の 2015/16 年度期末在庫は、飼料利用の減少から、1000 万ブッシェル減の 9 億 7600 万ブッシェルと予想されます（小麦の場合 1 ブッシェル＝約 27.2kg）。また、シーズンを通じた平均農場価格は 4.90～5.00 ドル／ブッシェルと見込まれます。

世界全体の小麦の供給は、生産増加により 100 万トンの増が見込まれます。エチオピア、パキスタンでの減少がありますが、EU とアルゼンチンで、それぞれ 150 万トン、30 万トンの増となるようです。

（2）粗粒穀物

米国のトウモロコシの飼料利用は 5000 万ブッシェル減少しますが、エタノール向けが 2500 万ブッシェル増加すると見込まれています（トウモロコシの場合 1 ブッシェル＝約 25.4kg）。その結果、期末在庫は 2500 万ブッシェル増と予想され、シーズンを通じた農場価格は、5 セント弱含みの 3.55 ドル／ブッシェルと見込まれます。ソルガムの食料・種子・工業用の利用は、エタノール向けが増えるために 2500 万ブッシェルの増加が予想されます。輸出は 1000 万ブッシェル減少し、農場価格は少し下がって 3.20 ドル／ブッシェルになると見込まれます。

世界全体では、アルゼンチンでは 2 月と 3 月に適時の降雨があったことにより、トウモロコシの生産量が 100 万トン増加し、メキシコとセルビアの両国とも 50 万トンの増加が見

込まれます。

EU では、飼料用小麦の供給価格との関係でトウモロコシ輸入が 100 万トン減少しますが、中国では、国内のトウモロコシ市場価格が飼料用の小麦価格に比して有利なため、トウモロコシの飼料用利用が増加すると見込まれます。

(3) コメ

米国では、長粒種の輸入が減少しているため 2015/16 年度のコメの国内供給は 50 万 cwt (1 cwt=約 45kg) の減少が見込まれます。長粒種の期末在庫は 50 万 cwt 減の 2250 万 cwt となり、全種類のコメの期末在庫は 4340 万 cwt になると予想されます。シーズンを通じたコメ全体および長粒種の価格はいずれも 0.30 ドル/cwt 低下し、前者は 12.30 ドル~12.70 ドルに、後者は 10.80 ドル~11.20 ドルに下落すると予想されます。中粒種および短粒種の価格も cwt 当たり 0.50 ドル下がると見込まれます。

2015/2016 年度の世界のコメ供給量は、生産減少が主因となって 50 万トンの減少が予想されます。このうちブラジルでは 30 万トン、パキスタンでは 20 万トンの減少が見込まれています。また、世界の貿易量および国内利用はいずれも減少が見込まれています。

(4) 油糧種子

米国の大豆輸出は、中国、イラン、バングラデシュおよびメキシコの輸入需要を反映して、1500 万ブッシェル増の 17 億 500 万トンに達すると予想されます。

2015/16 年度の油糧種子の世界生産量は 5 億 2700 万トンで、大きな変化はないものとみられます。このうち、世界の大豆生産量は、アルゼンチンの増加 (50 万トン増の 5900 万トン) がインドの減少 (50 万トン減の 750 万トン) を相殺するため、3 億 202 万トンと、大きな変化はないものとみられます。このほか、EU と中国ではナタネの生産増が予想され、中国ではヒマワリ種子の生産増も予想されています。

ブラジルと米国では油糧種子の輸出の増大が予想されますが、アルゼンチンとインドの減少を相殺するには至らないとみられます。また、中国では大豆の輸入が 100 万トン増加し 8300 万トンに達すると予想されます。イラン、日本、バングラデシュ、メキシコでも同じく輸入の増加が見込まれています。一方、ベトナム、エジプト、ベネズエラ、チリでは大豆輸入の減少が見込まれています。

文責：森 麻衣子

<参考リンク>

Prospective Plantings (USDA、英語)

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1136>

World Agricultural Supply and Demand Estimates Report (WASDA) (USDA、英語)

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空 (から) メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス: deskb@jaicaf.or.jp
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後 2 週間以内に届かない場合は、お手数ですが 03-5772-7880 (担当: 西野・森) までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行:(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSA ビル 3 階